



距離を取って食事をする「すみれ学級1組」。子どもたちは静かだった=24日夕、大分市敷戸西町、撮影・首藤洋平

笑顔減る子ども食堂

コロナ禍を歩く

ルポ おおいた

炊きたてのご飯とみそ汁の香りが部屋に広がる。午後6時。大分市敷戸西町の子ども食堂「すみれ学級1組」で、小中学生の男女3人が箸を伸ばした。隣席と間隔を空け、誰とも向き合わないように座っているのは新型コロナウイルスの感染を防ぐためだ。おのずと食卓の会話は減る。

「前は一つのテーブルに5、6人座ってにぎやかだったよ」。5年の女子児童。一方、利用者が多くなった地域もあり、初めて顔を

見た。⑩は少しさみしげだった。休校で利用者減。食事を無料や低額で提供する子ども食堂は現在、県内に63カ所ある。「すみれ学級」は大分、別府、豊後大野の各市で県内最多の計7カ所を運営。現在、感染防止対策や人員の確保ができる大分市内の3カ所のみ継続している。

間隔空け、向き合わぬ席

活動自粛も多く

豊後大野市三重町の「しげまさ子ども食堂」は4月から、月2回の食事を弁当に変えた。集まることができず、普段接する子どもたちの様子が分かりにくくなる。首藤文江事務局長(53)は「弁当を渡

別府市内籠の「あんのん子ども食堂」は今月の活動を中止した。県の外出自粛要請や、高齢の調理員の健康を考えた末の苦渋の決断だった。高橋護代表(68)は「楽しみに待っている子どもたちを思うと残念無念」と今も葛藤する。

「今こそ本領発揮」すみれ学級1組の夕食は20分ほどで終わった。相次ぐ休業や閉店、解雇……。終わりの見えないコロナ禍が仕事を奪い、暮らしを圧迫する。その影響はこれから見えてくる、と藤井富生理事長(72)は言う。「今こそ、子ども食堂の本領を発揮するときだ」おなかを満たした子どもたちはスタッフの大学生らに教わりながら、午後8時まで勉強を続けた。(池田美香) 随時掲載

「今こそ本領発揮」すみれ学級1組の夕食は20分ほどで終わった。相次ぐ休業や閉店、解雇……。終わりの見えないコロナ禍が仕事を奪い、暮らしを圧迫する。その影響はこれから見えてくる、と藤井富生理事長(72)は言う。「今こそ、子ども食堂の本領を発揮するときだ」おなかを満たした子どもたちはスタッフの大学生らに教わりながら、午後8時まで勉強を続けた。(池田美香) 随時掲載

新型コロナ 大分県の状況

	29日	累計
	感染確認者数	0
PCR検査数	33	3157
		死亡 1
		退院 41

※県発表、単位は人